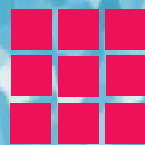


鹿大広報

No.158

Nov/2001

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会



特集：地域と大学

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

歯学部・同附属病院の地域連携

歯 学 部 長 大工原 恭
歯学部附属病院長 伊藤 學而

本学部は、南九州における歯科医師不足の解消、歯科教育の充実、歯科口腔外科医等の養成を目的として、鹿児島、宮崎、沖縄の三県とその歯科医師会、関係団体とが昭和47年9月に歯学部設置期成同盟会を発足したことに始まる。これを踏まえて、昭和52年10月の創設以来、地域と密接な連携をとりながら発展してきた。

歯学部・同附属病院の地域連携は、優れた歯科医師を世に出すこと、歯科医療関係者の生涯研修に資すること、地域の歯科医療の充実に役割を果たすこと、の3点に要約される。附属病院の22年に亘る歯科離島巡回診療が本年のMBC賞を受賞したのも、地域連携の証である。

◎県歯科医師会との連携

鹿児島県歯科医師会会長 四元 貢

歯学部との連携について、臨床家集団である我われは臨床を中心に考えますが、それだけではなく、歯科医師の卒後研修、研修登録医の生涯教育、開業医でも入学できる大学院歯学研究科の昼夜開講制度、そして鹿児島県歯科医師会・会立歯科学院の実習も引き受けていただき、教育面でもお世話になっております。また、県民の歯科保健・福祉・介護の向上に寄与する目的で昭和57年に設立された鹿児島県口腔保健協会においては、当初から大所高所の立場でご指導いただいております。歯学部が毎年開設している公開講座も、歯科医師はもちろんマスコミを介して県民にも定着しており、歯科医学を通じて社会の発展に貢献する人材育成に貢献されております。

将来歯科医師となる歯学部の学生に対して、歯学概論の中に鹿児島県歯科医師会会長として話をする時間を設けていただき、毎年定期的に行われている歯学部と歯科医師会との連絡協議会と共に、双方の連携を確かなものにしていただきたいと思います。更に、我われの機関紙「鹿児島県歯科医師会会報」には、各研究室から毎月交代で研究報告及びEBM (Evidence- Based Medicine) に関する文献の翻訳を掲載していただいております。

昨年は歯学部附属病院に、開業医も二次医療的な診療

に参加できる形態の特殊歯科総合治療部を創設していただきました。また、本年は、歯学部附属病院・行政・歯科医師会の三者が協力して「鹿児島県歯科病診連携推進委員会」を立ち上げ、「病診連携マニュアル」を作成しました。全国でも初めてのことです。互いに協力して、地域に貢献できると確信しております。



平成10年度歯学部公開講座の様子

◎公的病院との連携

県立大島病院院長 小代 正隆

県立大島病院では、昭和55年から5年をかけて400床の全面改築を行った。このとき、神経内科、麻酔科とともに歯科口腔外科が昭和59年3月30日に開設された。当時、奄美大島には歯科が少なく、口腔外科の手術を要する患者は鹿児島へ送るしかなかったために、当時の歯学部第一口腔外科の山下佐英教授が来島して手術を行うということで歯科口腔外科が開設された。

発足時は、鹿児島大学歯学部第一口腔外科から派遣された歯科医師2名と、技工士1名、歯科衛生士1名、看護婦1名の5名でスタートし、年間外来患者1400名、入院患者40名、手術件数30～40件であった。しかし、折から県立病院の経営悪化による経営改善5か年対策の一つとして歯科医師および歯科衛生士各1名の減となり、現在に至っている。今後は、市内の歯科開業医とよりよい連携をとりながら、高度で専門的な口腔外科診療を行っていくことが重要と思われる。